

一 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

赤ちゃんを見かけると、思わずそのやわらかそうなほっぺにさわりたいくなりますね。きみが生まれたときに、きみのまわりにはいた人たちがどんなにしあわせにつつまれたかを、きみは①したことがありますか。

小さなきみが笑うたびに、きっときみのそばにいただれもが思わずにつこりとほほえみを返したことでしよう。きみからだいつばいで泣いていれば、そばにいた、たぶんお母さんは、どんなに用事がいそがしくとも、その手をとめて、きみのもとにかけより、きみをあやしたり、きみがどうしてほしいのかをなんとかわかってあげたいと、いっしょうけんめいになったことでしよう。そうやってきみのお世話をすることが、いそがしいお母さんにはときどきともつかれてしまうことであっても、②そうすることはお母さんにとって、ほかのなにもでも味わうことのできない③でもあったのだと思いますよ。だから、どんなにいそがしくても、つかれていても、小さなきみのためなら、お父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんはいっばいつくしてくれましたはずですよ。

④なぜ、そうやってきみを世話することで喜びがわいてくるのか。そして、それがどんな喜びだったのかわかりますか？

それは、自分の時間を純粹にきみのためにつかっていたからこそ、わいてくる喜びだったのです。そして、小さなきみがあやされたり、世話をされたりすることにすっかり安心して身をゆだねている様子を見ると、ますますきみがいとしくて、きみに手をかけてあげることの喜びがどんどん深くなっていったのです。

ほかの人のために自分の時間をつかうということは、自分の時間がうばわれて、損をすることではないのです。それどころか、ほかのことでは味わえない特別な喜びで心がいっばいに満たされるのです。⑤こんな大きなお返しをもらえることなんて、めったにありません。

わたしが自分の時間をほかの人のためにつかうことに努力している理由が、これできみにもわかったでしょう。わたしはとびきり大きな喜びをもらうことに、とても欲ばりだというわけなのです。

ふつうは欲ばりというのは人からいやがられるものですが、この欲ばりだけは、

⑥ !!

と感謝までされてしまいます。これほどなりがいのある欲ばりは、ほかにはないでしょう。だから、わたしはきみにも、ぜひそうなってみることをおすすめします。

ほかの人の喜びをいっしょに喜べば、その喜びは二倍になるといわれます。ほかの人の悲しみをいっしょに悲しめば、その悲しみは⑦になるといいます。これはドイツに古くから伝わることわざだそうです。そうやって、人と人が思いやりをもってはげましあい、ササえあっていくことが、人生のなかでじつはいちばんすてきなことなのです。

人間ってすごいものだなあとわたしが心から思うことは、人間には思いやりの心というものがあって、見も知らない人のためにも自分の時間をつかえるというところなのです。そんなことは動物にはできません。人間だけにできることです。そう考えると、⑧きみもわたしも人間に生まれてきてよかったですね。だから、人間であることを味わいつくさなきや、それこそ損だと思えますよ。

人間のすばらしいところは、まだあります。自分の過去の体験から多くのことを学ぶことができるということです。

ただし、学ぶといっても、⑨それは学校の勉強とはちがいます。なにを、いつ、どんな順番で学ばなければならぬかがきままっているわけではありません。教科書や問題集ももちろんありません。先生がそのつど、わかりやすく教えてくれるわけでもありません。

人間らしく、よく生きていくための知恵を、人は自分の体験をとおして自分で学びとっていくのです。学校の勉強のように、学習したことをどれだけ理解できているかを、テストでタメされるようなことはありません。テストがないのですから、自分がどれくらい点数を取れているのかを知ることでもできませんし、だれか

から自分の理解の足りないところを指摘されたり、注意されたりすることもありません。

長い時間をかけて自分の力で「⑩なにか」を（ここがだいじです！）学びとって、それを長い人生のなかで⑪自分なりに応用していくのです。そんな「学び」もあるのですね。ジツサイのところ、いまきみも自分ではそれとは気づいていませんが、毎日毎日、学校の勉強とはちがう「なにか」を学んでいる。サイチュウなのです。

（日野原重明著『十歳のきみへ』より）

問一 〓線部ア～エのカタカナを漢字に直して正しく書きなさい。

問二 ①には、どのような言葉が当てはまりますか。次の中からふさわしいものを選んで記号で答えなさい。

- ア 実感
- イ 学習
- ウ 想像
- エ 体験

問三 〓線部②「そうすること」とはどうすることですか。次の中からふさわしいものを選んで記号で答えなさい。

- ア 用事がいそがしいのに世話をしなければならなくて、手をとめてかけよること。
- イ 笑うたびに、思わずにつこりとほほえみを返すこと。
- ウ いそがしくて、ときどきともつかれてしまうこと。
- エ あやしたり、どうしてほしいのかをわがろうとして、いっしょうけんめいになること。

問四 ③には、どのような言葉が当てはまりますか。本文中から二字で抜き出さない。

問五 〓線部④「なぜ、そうやってきみを世話することで喜びがわいてくるのか」とありますが、その理由とは何ですか。本文中より二十五字以内で探し、そのまま抜き出さない。

問六 〓線部⑤「こんなに大きなお返し」とは何ですか。本文中より五字で抜き出さない。

問七 ⑥と⑦には、どのような言葉が当てはまりますか。それぞれ、ふさわしい言葉を自分で考えて答えなさい。ただし、⑥は五字、⑦は二字とします。

問八 〓線部⑧「きみもわたしも人間に生まれてきてよかったですね」とありますが、それはなぜですか。次の中からふさわしいものを選んで記号で答えなさい。

- ア 人間だけが思いやりの心を持っており、ほかの人のために自分の時間をつかうから。
- イ 楽しい時間をみんなといっしょに過ごすことができ、さらに楽しくなるから。
- ウ 生まれてきて本当によかったと感ずることが、人間以外の動物にはありえないから。
- エ 動物だったら、生まれてきてよかったとはまったく考えられないから。

問九 — 線部⑨「それ」は何を示していますか。次の中からふさわしいものを選んで記号で答えなさい。

- ア 学ぶこと。
- イ 自分の過去の体験。
- ウ 自分の過去の体験から多くのことを学ぶこと。
- エ 人間のすばらしいところが、まだあること。

問十 — 線部⑩「自分なりに応用していく」とはどういうことですか。次の中からふさわしいものを選んで記号で答えなさい。

- ア 十分に学び取ること。
- イ 自分を見つめ直すこと。
- ウ 人生に生かすこと。
- エ 自信を持つこと。

問十一 — 線部⑪「なにか」とは何を示していますか。本文中の言葉を用いて三十字以内で答えなさい。句読点も一字として考えます。

二次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

リビングに戻ると、パジャマ姿の健哉が立っていた。目が赤い。「パパ、さっきの電話……」と切り出す声も①溼って、くぐもって、揺れていた。

僕は黙って、かすかに微笑ほほえんでうなずいた。それだけで伝わった。健哉はソファーに座り込み、永原先生からの電話を受けたときの僕と同じように、ゆっくりと大きく息をついた。

②健哉はこの半年間で、ずいぶんおとなになった。きっと、まだ子どものままでいてもいいところまで、おとなになってしまったのだろう。

「すぐ行くの？」

「いや……いますぐどうこうっていうんじゃないから、七時ぐらいに家を出ればいいよ。だから、まだ寝てていいんだ。六時に起こすから、それまで寝てろ」

「そういうもののなの？」

意外そうに、健哉は訊きいた。③少し拍子抜けして、そして不服そうでもあった。

僕アだって、本音ではそうだ。昔—まだ家族の誰かが死んでしまうなど想像すらできなかった頃は、ひとが危篤イに陥おったときはもつとあわただしいものだと思っていた。とるものもとりあえず病室に駆けつけても、臨終に間に合うかどうか。そんな場面を、ドラマや漫画や小説で何度も見てきた。

だが、現実は違う。時間はゆっくりと流れる。事故や急性の病ではないせいだろう。半年間、和美は病氣と闘ってきたのだ。苦しい思いをしてきたのだ。最後の最後は、ゆっくりでいい。

「ココアかなにか飲むか？」

「ううん……いい」

「ケン、④宮沢賢治って知ってるか」

「うん……」

『永訣の朝』っていう詩があるんだ。妹が死んじゃったときの詩なんだけど、パパ、それ、高校の国語の授業で習ったんだ。まだ覚えてるんだ、書き出しのフレーズ」

「……どんなの？」

『けふのうちに／とほくへいつてしまふわたくしのいもうとよ』って……今日のうちに遠くに行ってしまう
ってというのが、⑤よくわからなかったんだよ、高校生の頃は」

死は⑥突然に訪れるものだと思っていたのだ、あの頃の僕は。交通事故でも心臓麻痺でも、死は不意に目の
前に現れて、不意に僕たちをさらっていくのだと思ひ込んでいた。

だから、死が怖かった。不意に現れる以外に想像できないほど遠いから、怖かった。

「でも、いまはわかるんだよな、あの詩のことが。今日のうちに遠くに行ってしまう……わかるんだよなあ……」

あの詩の季節は冬だった。たしか、賢治の妹は雪だったかみぞれだったかを欲しいと言って、賢治はそれ
取りに庭に出て、お椀ウツに入れた雪を見て思うのだ。あとにのこされる自分を一生明るくするために、妹は雪
をねだったのだと。違っていただろうか。記憶はあやふやだ。いつか、落ち着いたら、宮沢賢治の詩集を買っ
てみよう。

「いまから病院にいったら、だめなの？」

「お医者さんは朝でいいって言ってたんだ」

⑦「でも……」

「ダイも寝てるし、お医者さんがまだ来なくていいって言ってるんだから。なにかあったらすぐに携帯が鳴る
から、だいじょうぶだ」

「でも、行きたい」

⑧「いいから寝てろ。眠れなくても、横になって休んでろ。ちゃんと休んで、朝ごはんもちゃんと食べて、し
っかりしたところを最後にママに見てもらえ」

浴室から、お湯が溜溜まったことを知らせるアラームが聞こえた。

「パパ、これから風呂に入るんだ。おまえもあとで入るか？」

⑨返事はなかった。

僕も黙って浴室に向かった。

重松清『その日のまえに』より

問一 二重傍線部ア～エの漢字の読み方を答えなさい。

問二 傍線部①「湿シって、くぐもって、揺ユれていた。」とありますが、ここから健哉のどのような気持ちがあ
りますか。次の中から健哉の気持ちに当てはまらないものを一つ選んで記号で答えなさい。

ア 動揺 イ 不安 ウ いらだち エ 恐怖

問三 傍線部②「健哉はこの半年間で、ずいぶんおとなになった。」とありますが、健哉がおとなになった様
子がわかる一文を抜き出さなさい。

問四 傍線部③「少し拍子抜けして」とありますが、次の中から拍子抜けしてしまった理由として最も適当な
ものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ひとが危篤に陥ったときはあわただしいものではないと思っていたから。

イ 死は不意に訪れるものではないと思っていたから。

ウ 死は突然僕たちをさらっていくものだと思ひ込んでいたから。

エ 死が不意に現れる以外に想像できないほど遠いから。

問五 傍線部④「宮沢賢治」とありますが、次の中から彼の作品を二つ選び、記号で答えなさい。

ア 蜘蛛の糸 イ 吾輩は猫である ウ 銀河鉄道の夜 エ 兎の眼 オ 注文の多い料理店

問六 傍線部⑤「よくわからなかった」とありますが、それはなぜですか。「から」に続けられるような三五字前後の箇所を抜き出し、初めと終わりの五字ずつで答えなさい。

問七 傍線部⑥「突然に」とありますが、この言葉と同じ意味を持つ三字の言葉を本文中より抜き出しなさい。

問八 傍線部⑦「でも……」とありますが、ここから健哉のどのような気持ちがわかりますか。次の中からそれに当てはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア あせり イ いらだち ウ 不安 エ やすらぎ

問九 傍線部⑧「いいから寝てる」と健哉に強く言った主人公（「パパ」）の気持ちを最もよく表しているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 妻の危篤の知らせに実は主人公も気持ちが落ち着かないのだが、健哉の父親として、同じように母親を心配して落ちつかない息子に、自分にも言い聞かせるように強い言葉で接している。

イ 妻の危篤の知らせを受けた主人公は気持ちが落ち着かず、母親の様子を心配して聞きに来た息子に對して思わずいだちをぶつけてしまい、強い言葉で接してしまっている。

ウ 浴室からお湯が溜まったことを知らせるアラームが聞こえ、母親の病状も心配ではあるが、健哉の落ち着かない様子を見かねて息子の体調を気づかい、やさしい言葉で話しかけている。

エ 返事のない息子からどうしても母親に会いたい気持ちが抑えられないことを理解し、その気持ちを抑えるためにも父親としての厳しい姿勢を貫こうと考え、強い言葉で接している。

問十 傍線部⑨「返事はなかった。」とありますが、この時の健哉の気持ちを表した漢字二字の熟語を文章の中から抜き出しなさい。